広報レポーターが気づいたまちの魅力

住みよさ実感

印旛飛行場跡地を訪ねて ～西の原のシイの木が見た歴史～

広報レポーター
近能 善弘（内野）

印西牧の原駅と西の原・原・東の原の大半は、飛行場だったことを知っていましたか。1941年に印旛地方航空機乗員養成所が開所され、この地に飛行場が造られました。1944年からは陸軍が首都防衛等に使用、終戦後に飛行機は爆破されましたが、その後、養成所施設は1949年から1976年まで印旛少年院として使用されました。当時、空襲から飛行機を隠す掩体壕（えんたいごう）という格納庫が造られ、現在は東の原3丁目に掩体壕跡が保存されています。また東の原公園には掩体壕を模した砂場が造られています。

西の原公園の「平和の碑」と飛行場の説明文

掩体壕跡

東の原公園の砂場

陸軍隊員の中には特攻隊として戦死した人もいて、西の原公園には「平和の碑」が建立されています。西の原小学校西門前の南街区公園にある大きく枝を広げたシイの巨木は、養成所敷地内に植えられたものです。このシイの木は、陸軍兵や少年院の院生たちを眺めてきました。今は公園で遊ぶ子供たちを眺めています。西の原のシイの木は、変動の歴史の生き証人です。

掩体壕から東の原公園や西の原公園、シイの木までは、元飛行場であったことから平坦な地形で、散歩には最適のコースです。皆さんもシイの木が見た歴史を思いながら歩いてみませんか。

変動の歴史を見てきた「西の原のシイの巨木」